

未来の京都のまちのシナリオ例

【シナリオ例1 ～市民の交通行動～】

都心周辺部で暮らすAさん家族の四条河原町での買い物を例として

公共交通を利用したゆとりある交通行動が、家族の会話を育む。

歩行者空間の改善により都市空間における公共性が高まり、人と人とのコミュニケーションが生まれ、さらなる都心の賑わいを創出する。

<現在>	<将来>
<p>◇ 四条河原町までは、バスと地下鉄の乗り継ぎで行けるが、バスだと時間が読めないのと、家族全員だと交通費がかかると思う※ので、クルマを選択。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 渋滞に巻き込まれることなく走行できたが、駐車場の待ち行列が長い。なかなか前に進まないで、家族を先に降ろす。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ ようやく駐車できたので、家族と合流。駐車時間（料金）を気にしながら、駐車場周辺で買い物。渋滞で動かないクルマより歩道の方が多くの人が歩いているのに、歩道はせまい。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 買い物を終え、駐車料金を払って出庫。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 帰りは、渋滞に巻き込まれ、帰宅時刻が遅くなったので、急いで夕飯の用意。</p> <p>※公共交通を利用する費用とクルマを所有することによる諸費用（購入費、車検、メンテナンス、保険など）と比較した場合、必ずしも公共交通に掛かる費用が高くなるわけではない。</p>	<p>◇ 家族で使える環境定期権があるので、四条河原町まではバスと地下鉄を利用。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 徒歩で最寄りのバス停まで。途中、近所にできた新しいパン屋を見つけ、今度、買ってみたいと会話が弾む。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ バスは、時刻表通りに到着。バスの中では、外国人観光客に道を訪ねられることも。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 地下鉄に乗り換えるためにバスを降りる。乗り換えもICカードでスムーズに。待ち時間も短く、すぐに地下鉄が到着。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 駅に着いたら、トランジットモールをおしゃべりしながら歩き、気に入ったお店でショッピング。歩道は広く、安心してゆっくり歩くことができる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 帰りは、行きと違うバスに乗って帰ることに。バス停までは、ルートを変えて川縁を歩いていくことに。川床が出ている季節には、とても風情を感じる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ バスは、時刻表通りに到着するので、バス待ちによるストレスはない。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 予定時間通り帰宅し、お母さんは慌てることなく夕飯の準備。</p>

●未来のまちづくりに寄与する主な施策

- ✓ 歩行空間の改善、ダイヤ改善、系統再編、バス専用レーン、ICカード、シームレス、トランジットモール

(1) 【シナリオ例2 ～観光客の交通行動～】

愛知県に住むBさん一家の京都旅行を例として

公共交通の利便性向上により、ストレスを感じない京都市内の回遊が可能となる。また、安心安全な歩行空間の改善により、歩くことで体感できる京都の魅力を満喫する観光が可能となり、観光地での賑わいが京都のまちに賑わいをもたらす。

<現在>	<将来>
<p>◇ 新名神高速道路が整備されたので、クルマに乗って家族全員で京都観光に行くことに。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 高速道路の渋滞は無かったが、市内に入ってから渋滞に巻き込まれた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ ようやく最初の目的地、二条城に着いたので、クルマを駐車場に停めた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 駐車場を出て、次の目的地の金閣寺に向かったが、金閣寺周辺の駐車場は満車で空車を待つことに。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ ようやく駐車できたが、駐車するのに時間がかかったので、近くで昼食を済まして、金閣寺に向かうことに。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 予定より時間が遅くなり、道路も渋滞し始めてきたので、もうひとつ周りたかった観光地を諦めて、帰路に就いた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※公共交通を利用する費用とクルマを所有することによる諸費用（購入費、車検、メンテナンス、保険など）と比較した場合、必ずしも公共交通に掛かる費用が高くなるわけではない。</p>	<p>◇ 新名神高速道路が整備されたので、クルマに乗って家族全員で京都観光に行くことに。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 鉄道駅周辺のP&R駐車場を利用して、公共交通乗り放題の1日観光カードを購入した。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 地下鉄を使って最初の目的地の二条城に到着。地下鉄の中では、ガイドブックをみんなで再チェック。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 予定通りに二条城に到着したのでゆっくり観光できた。二条城を出てから堀川の水辺を少し歩いてから、バスで金閣寺に向かった。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ バスは渋滞に巻き込まれることなく金閣寺に到着。金閣寺を出たあとは、ガイドブックで見つけたレストランで食事することに。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ レストランは、金閣寺から少し離れていたため、バスで向かった。食事を終えた後は、お土産を買いに四条河原町まで地下鉄で向かった。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>◇ 気に入ったお土産も見つかって、クルマを停めた駐車場に戻ることに。帰りのバスの中では、今日観たところの話で盛り上がった。</p> <p>◇ 市内の観光は、公共交通を使って移動したため、運転手のお父さんの疲れも少しは取れたようだ。</p>

●未来のまちづくりに寄与する主な施策

- ✓ P&R, 歩行空間の改善, ダイヤ改善, 系統再編, バス専用レーン, ICカード

【シナリオ例3 幅広い観点からみた未来のシナリオ】

	クルマ依存型の傾向が 今より強まれば・・・		公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現で こう変わる
健康	クルマの排ガスや騒音による健康被害が増加するほか、歩く機会の喪失により運動量が低下、肥満や生活習慣病の遠因ともなる	→	クルマ利用の抑制により排ガスや騒音が低減されるほか、駅や目的地まで歩く、自転車に乗ることにより適度な運動が促され、肥満や生活習慣病の防止につながる
環境	クルマに依存した生活は、大気汚染や道路騒音、さらなる地球温暖化による気候変動など悪影響を及ぼす	→	環境にやさしい公共交通と自転車の利用促進により、大気環境や道路騒音を改善し、及び温暖化に歯止めをかけ、京都議定書誕生の地として、次世代に良い地球環境を残す先進モデル都市となる
公共交通	公共交通の利用が減少を続け、経営が成り立たなくなり、やがてはサービスの縮小を余儀なくされる	→	公共交通サービスの向上により利用が増加し、交通事業者の経営改善によりさらなるサービス向上を促すなどの好循環となる
子育て・教育	クルマが行き交う道路上では通学時など交通事故の増加が懸念される。また公共交通の利用機会の低下は、公共マナーを学習する機会の低下を招く	→	安全な公共交通の利用促進で、こどもが安心して通学出来る。また、公共交通の利用を通じて公共マナーの学習ができる
コミュニティ	歩道を行き交うことがなくなり、人と人の交流が少なくなる。まちに人が少なくなることにより、治安面での懸念も増加	→	人が行き交い、歩道や公共交通の車内であいさつを交わすなど、人と人のふれあいが増加。人のにぎわいや華やぎが増加し、犯罪抑制にもつながる
景観	道路上の多くの空間をクルマが占めており、町家など歴史的まちなみとの不調和を生じるほか、ロードサイド型店舗の大きく派手な看板が景観を阻害	→	クルマに代わって人と公共交通が新たなまちのシンボルとなり、人の目線にあった、都市景観と調和した広告看板等で、京都特有の歴史的まちなみを保存
観光	観光駐車場が不足している中、ピーク時は著しい交通渋滞により、市民生活にも多大な影響を与え、観光客の不満も増大	→	歩いて楽しめる観光の創出と、マイカー渋滞を抑制し公共交通を充実することで、市内での多数の観光スポットの回遊性が高まり、観光客の満足度も増加
経済	渋滞により、生活に必要な物流なども影響を受け、経済損失が増加し、伝統産業の衰退も懸念。また郊外化により中心市街地の活力が低下	→	まちに人がにぎわうことによる中心市街地の活性化が期待できるほか、渋滞による経済損失が軽減でき、京都が世界に誇る伝統産業の振興にも寄与